

しなののうた

立春を過ぐるも雪の降り続きエアコンの音噉噉唸る



杉田小百合

しなののうた

一瞬に太陽煌めき空仰ぐぎらぎら光る雪を眩しむ

杉田小百合



しなののうた

凍みる道  
転ばぬようにのろのろと身振り  
気にせず亀這ふごとし



杉田小百合

しなののうた

買ひ置き玉ねぎつんと芽を伸ばし季を疑はずに春の告げくる

杉田小百合



しなののうた

モノクロの銀嶺目指し帰りゆく鳥の軍団夕日に沈む



杉田小百合